

教員名	中村 美奈子 (NAKAMURA Minako)
所 属	文教育学部芸術・表現行動学科舞踊教育学講座
学 位	芸術学士 (東京藝術大学)、人文科学修士 (お茶の水女子大学)
職 名	助教授
URL/E-mail	http://buyou1.li.ocha.ac.jp/Nakamura/index.html http://www.li.ocha.ac.jp/geijutsu/buyou/ / nakamura.minako@ocha.ac.jp

◆研究キーワード

民族舞踊 / 舞踊記譜法 / 舞踊動作分析 / ダンスとコンピュータ / インドネシア

◆主要業績

総数 (4) 件

- ・中村美奈子, 小島一成, 海賀孝明: 「特集「巧みな動き」の脚と腕: 「舞」における腰と上肢の動きーバリ島の舞踊を事例としてー」, 『体育の科学』日本体育学会, 56 (3) 197-203, 2006年3月
- ・Minako Nakamura, Kozaburo Hachimura: “An XML representation of Labanotation Laban XML and its implementation on the notation editor LabanEditor2”, Proceedings of the First South-Eastern European Digitization Initiative (SEEDI) Conference2005, pp90-93, Ohrid
- ・中村美奈子「国際日本学シンポジウム『無形文化財の保存とデジタルアーカイヴ』概要」, 比較日本学研究センター研究年報, 2号, pp67 (セッション3) , pp71 (セッション4) , 2006年3月

◆研究内容

筆者は、インドネシア・バリ島の舞踊を研究対象とし、その舞踊の技法、表現特性、舞踊構造の分析を行っている。2005年度は、科学研究費により短期間ではあるが現地調査を行った。また、立命館大学のCOE客員研究員としてマケドニアで開催された「第1回東南ヨーロッパデジタル化企画国際会議」にて研究発表を行った。更に2005年度は、お茶の水女子大学比較日本学研究センターの一員として、国際日本学シンポジウムにおいて『無形文化財の保存とデジタルアーカイヴ: テクニカルセッション』および『無形文化財の保存とデジタルアーカイヴ: パネルディスカッション』を企画運営した。立命館大学(COE)と神奈川大学(COE)の研究者および韓国の研究者を招聘して討論するとともに、テクニカルセッションでは、筆者の所属院生の研究テーマである岩手県の民俗舞踊、鬼剣舞の団体を招聘して舞踊の計測を行った。この計測データの分析を、来年度以降の研究の中で行っていく予定である。

◆教育内容

舞踊教育学コース所属の学生らは、そのほとんどが、バレエやモダンダンスなど西洋の芸術舞踊を実践してきている人たちである。筆者の教育目標は、さまざまな身体表現、舞踊表現が世界には存在すること、また、舞踊は、その社会文化的背景と深く結びついた表現様式をもっていること、そして、舞踊は芸術的なものだけではなく、民俗芸能のように社会的な機能をも果たしていること等を理解してもらうことである。そして、それらの理解を通して、舞踊創作の際に新しい表現方法を構築する糧としてもらいたいと考えている。そのために、講義、演習だけでなく実技授業も毎年開講している。2005年度は、加えて舞踊記譜法についての講義と実習を開講し、舞踊研究の方法論としての可能性について検討した。大学院では、「民族舞踊学特論」において、各院生の研究テーマを「民族舞踊学の視点から検証する」という内容の授業を行った。

◆Research Pursuits

I am studying the dance technique and structure of Balinese (Indonesian) dance.

In 2005, I took a field trip to Bali by Grants-in-Aid for Scientific Research.

In 2005, I also took part in the COE research project in Ritsumeikan University as a COE guest researcher and read my paper at the first South-Eastern European Digitization Initiative Conference which held in Macedonia.

I organized two sessions titled "Documentation of Intangible Properties and Digital Archives" at the 7th Symposium on Global Perspective in Japanese Studies as a researcher of Center for Comparative Japanese Studies in Ochanomizu University.

◆Educational Pursuits

Most of the students in our dance education course only know Western dances such as Ballet or Modern dance.

I am teaching those students that there are many more kinds of dances which have their own cultural background and that some of them are not artistic but perform a social function.

In 2005, in addition to those lectures and practices, I gave a lecture on "Dance Notation (Labanotation)" as a method of analyzing dance.

To the graduate students I gave a lecture to examine the research subject of every graduate student from the point of view of Ethnochoreological (Dance Ethnology).

◆共同研究例

- ・ラバン式身体運動記譜法に基づく身体運動データのXML表現の開発
- ・モチーフ・ライティングに基づく舞踊（運動）創作あそびのソフト開発
- ・光学式モーションキャプチャーを用いたアジア地域の舞踊の手と指の動作解析

◆特許

- ・Labanotation（舞踊記譜法）のXML表記（LabanXML）の国際標準化

◆将来の研究計画・研究の展望

文化人類学から情報学までさまざまな領域の研究者らとの学際研究を通じて、舞踊および身体表現に関する研究を行ってきた。今後も幅広く身体文化、身体表現、身体運動の解明にかかわる研究をしていきたいと考えている。アジア地域（特に東南アジア地域）の舞踊の通文化的な比較分析を通して、各舞踊の特性や普遍的な身体表現について研究していきたい。

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

- ・舞踊芸術公演のためのメディア開発
- ・モーションキャプチャーを用いた民族舞踊の動作分析
- ・アジア地域の舞踊の伝承と教育について

◆受験生等へのメッセージ

舞踊は、その社会文化的背景と深く結びついた多様な表現様式があること、そして、舞踊は芸術的なものだけではなく、民俗芸能のように社会的な機能持つものもあることを是非みなさんにも知ってもらいたいと思っています。同時に、バリダンスは見ていると緩やかで楽しそうですが、実は中腰の姿勢で踊るのはきついということを是非実技授業で体験してください。そんな「伝統的」な舞踊の研究をしている私ですが、実は大変な新しいもの好きで、共同研究のほうでは、1998年頃からずっとモーションキャプチャーという装置で舞踊の計測をしてきています。モーションキャプチャーは、日本では主にゲームの人体のCGを作るときに使われていますね。最初の頃は「そんなもので舞踊が計測できるわけがない」と敬遠されたものですが、最近は技術が発展したこともあり、舞踊学の1ジャンルのようにさえなっています。一緒に舞踊学の新しい可能性を切り開いていきましょう！

